



Vol.97



きむら しんご  
木村 真吾さん

●プロフィール

33歳 厳原町西里生まれ。対馬高校卒業後、香川県の整骨と鍼灸の専門学校で計6年学ぶ。東京の整体院や横浜の鍼灸整骨院で勤務し、2年前の7月に「いまやしき鍼灸整骨院」を開業。鍼灸の専門学校時代に知り合った奥様と横浜勤務時代に結婚。5歳の長女、2歳の長男との4人暮らし。美津島町雞知在住。

○鍼灸や整骨の仕事に携わろうと思ったきっかけは？

小学校2年の時からソフトボールを始めて、中学校では軟式野球でピッチャー、高校では硬式野球でキャッチャーといった具合で、ずっと野球漬けの毎日。肘や肩が痛いという時はありましたが、治療するほどのものではありませんでした。それが高校3年生になってすぐの頃、足首のじん帯を痛めてしまい、初めて治療院へ。自分のケガをきっかけに、薬を使わずに治療する方法と職業を知りました。

○治療の間、不安だったでしょう

野球ができない辛さと、高校生最後の試合に出られるのかという不安がありました。でも、試合までにどうにかして治したかったですから、いろんな説明を受けながら先生を信頼して、委ねる気持ちで治療を受けました。約2か月の間松葉づえでの生活を強いられましたが、最後の試合には間に合っただけで、別のポジションで試合に出してくれました。配慮してくださった監督や、代わりにキャッチャーをしてくれた仲間にも感謝しています。試合には負けましたが、良い思い出になりました。

○6年間という専門学校生活は長かったですか？

はじめは整骨の分野を3年間学んでいましたが、治療には鍼も有効ということを知り、もう3年鍼灸の学科に進むことを決めました。両親の後ろ盾もありましたし、いつかは自分の治療院を持ちたいという思いが、学びへの力になりました。

○整体院での勤務時代はいかがでしたか？

学生時代の雑用助手のバイトとは違い、厳しかったです。でも、自分の技術を磨くためと思い、学ばせてもらいました。横浜での最後の3年間は分院長を務めさせてもらい、その間に運営などを学ばせて

もらいました。職場環境もとても良かったのですが、自分の夢をかなえたい思いが強く、社長にもしばしば相談し、最後は頑張ってくださいと後押ししてくれました。

○夢をかなえるため対馬でスタートを切ったわけですね

対馬に帰ってきて物件を探し、大工をしている父に改装してもらいました。間取りや配置を相談し、僕も少し手伝いながら形になっていく日々が膨らみました。患者さんは、学生から高齢の方まで様々。スポーツや仕事で傷めたり、生活の中でのケガが原因だったり。部活でケガをした学生が来院してきた時は、あの日の僕と重なるようでした。早く復帰したいという思いがよく分かるだけに、次の大会の日程を聞きながら、僕なりの治療プランを立てました。

痛みを取り、復帰できるように治療を進めていくには、患者さんとの信頼関係も大切になります。嬉しいのは、患者さんが復帰できて喜ぶ姿を見られることですね。

○夢をかなえたお気持ちは？

開院するのがゴールではないので、自分の中ではスタートしたばかりという感じです。医療従事者として常に勉強して、医療の進歩に対応し取り入れていきたいです。一日の仕事を終え、家族の顔を見るとホッとして疲れも取れます。僕の大きな支えです。腹を据えて家族も支え、仕事をしていきたいです。

毎回、登場して下さった方に次の方をご紹介します。次回は美津島町雞知にお住まいの藤島大輔さんです。楽しみに。